

ホタテガイ養殖管理情報

新貝の玉付け、籠替え、掃除は中層水温が20℃を下回ってから行いましょう

1 海況

8月29日～9月3日の各ブイの中層(10～15m層)の水温は22～25℃で(図1)、平年より高い状態が続いています。

2 新貝の養殖管理について

ホタテガイ新貝および成貝は、20℃で成長が止まり、それ以降は中腸腺(ウロ)や貝柱のエネルギーを使って生命を維持しますが、水温が高くなるほどエネルギーの消耗が激しくなり、最後は**エネルギー不足でへい死**します(図2、3)。

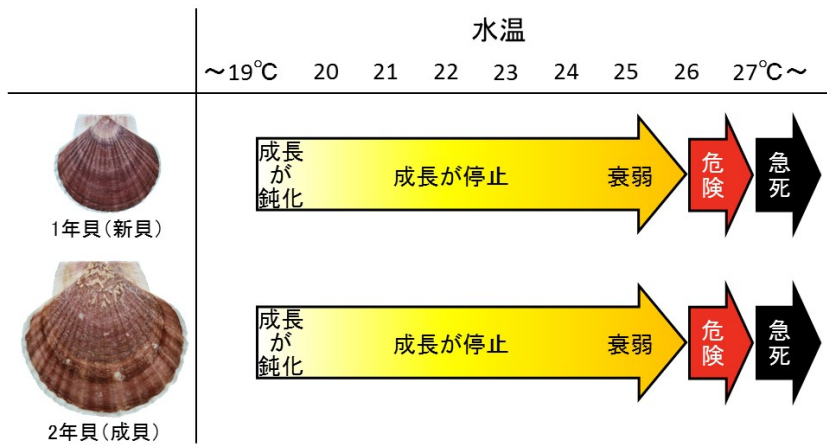


図2 新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響

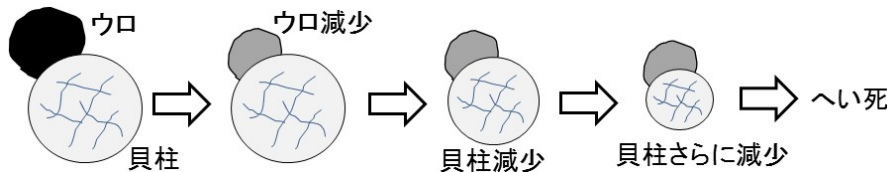


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

適水温前に作業を行うと、へい死率や異常貝率が高まる(図4)ので、新貝の玉付け・籠替え・掃除は、**中層の水温が20℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始**してください。ただし、**籠や耳吊りが海底に着底している場合は水温が22℃前後でも玉付けを行っても構いません。**

3 稚貝分散について

分散作業は中層水温が稚貝の体力が回復する**23℃を下回ってから開始**してください。また、稚貝の状況や作業時の注意点については、9月17日に発行予定のホタテガイ養殖管理情報第5号に掲載しますので、参考にしてください。

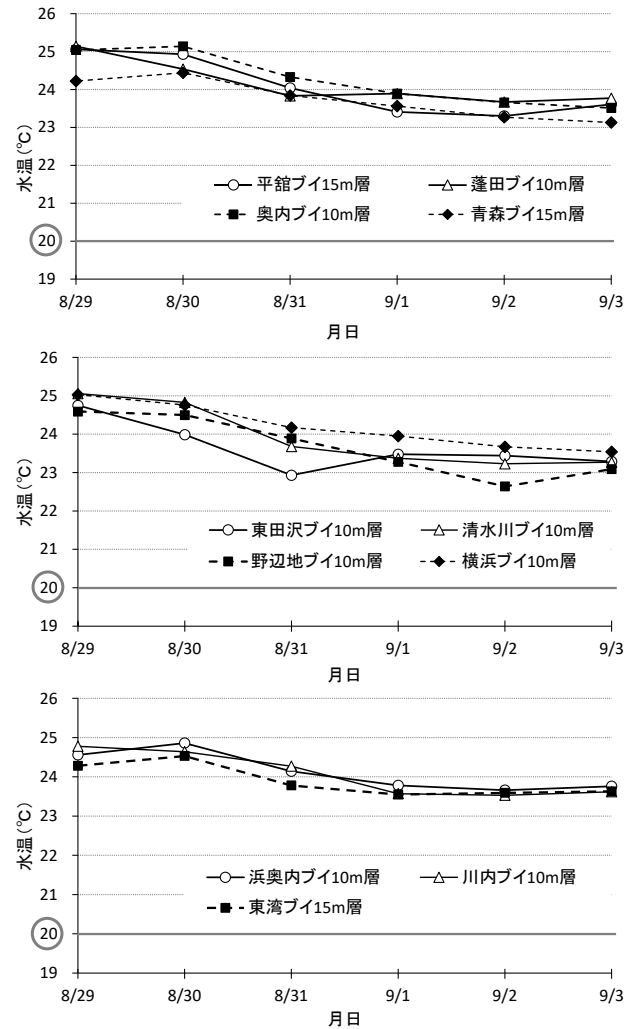


図1 海況自動観測ブイ(15m層)と水温観測ブイ(10m層)での日平均水温の変化

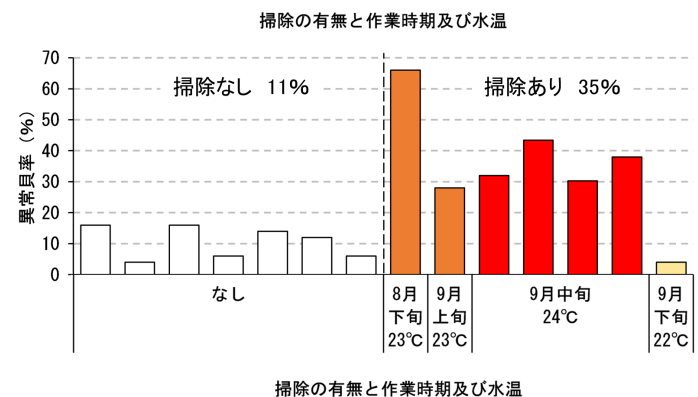
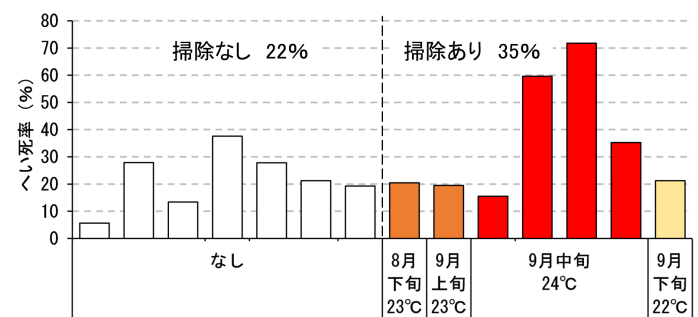


図4 耳吊り新貝の掃除時期別へい死率および異常貝率(R1年秋季実態調査)

